

平成25年度 第2回愛知県生涯学習審議会会議録

1 開催期日

平成26年2月13日（木）9時30分から11時7分まで

2 場 所

愛知県議会議事堂ラウンジ

3 出席した委員の氏名 16名

大島伸一、小川明子、恩田やす恵、加来正晴、木本文平、須崎かん、鈴木照美、津浦純子、服部重昭、林寛子、広沢憲治、牧野秀泰、松田武雄、山田久子、吉川佳代、和田典之

4 欠席した委員の氏名 2名

足立誠、志村貴子

5 会議に付した事項

議 事

- (1) 生涯学習に関わる各主体に期待される役割を実現するための具体的な施策（案）について
- (2) 平成26年度愛知県生涯学習推進計画事業（案）について

報 告

愛知県子ども読書活動推進計画（第三次）について

6 会議の経過

- 会議録署名人の指名
会長から恩田委員と広沢委員を署名人に指名
- 生涯学習に関わる各主体に期待される役割を実現するための具体的な施策（案）について
事務局から説明、質疑応答の内容は別紙のとおり
- 平成26年度愛知県生涯学習推進計画事業（案）について
事務局から説明、質疑応答の内容は別紙のとおり
- 「愛知県子ども読書活動推進計画（第三次）」について
事務局から報告

【生涯学習に関わる各主体に期待される役割を実現するための具体的な施策（案）
について（資料1）】

〈各委員の意見要旨〉

- 法律に基づいて子ども若者支援地域協議会を自治体で作りつつあるところだ
と思うが、現在、愛知県ではこの協議会の設置状況はどうか。また、家庭教育
コーディネーターをこれに参加させるのは良いことだが、若者支援という部分
で何らかのコーディネーターや指導者が関与するのか。
- 言葉の問題であるが、生涯教育について、美術館もそうであるが、博物館に
おいても、生涯教育に絡むような企画、イベントを積極的に行っているので、
公民館という言葉に限定せず、公民館等社会教育施設という文言にしたらどう
か。公民館等社会教育施設とした方が、生涯教育の今後の在り方ということでは
良いのではないか。
- それぞれの主体について、どういう課題があるかしっかりとまとめられてい
てわかりやすいが、家庭教育コーディネーターや子育てネットワーカー、地域
活動コーディネーターなど、今現在、どれくらいの人数がいるのか。また、そ
ういう人たちの周知をどのように行っているのか。
- 地域活動コーディネーターとは、具体的にどういう人たちか。地域で中心的
な活動を行っている人たちのことか。
- 学びネットあいちのシステム改修の予算化であるが、充実した資料提供がな
されることが期待でき、素晴らしいことだと思う。また、幼稚園や保育園でも
保護者の会をやっており、幼児教育段階でのPTAの方々も巻き込むと家庭教
育にもたいへん効果があるので、社会教育指導者への研修において、幼児教育
団体についても、この研修に位置付けられると良い。
- 各主体だけで解決できる問題は限られていると思う。いろいろな主体が参加
し、議論して解いていかなければならない問題もかなりあるのではないか。一
つの問題に対して、関わりのある主体が集まる場や情報交換をする場というも
のはあるのか。
- 主体ごとに検証しているという点はたいへん分かりやすいが、主体ごとに分か
れていて、相互の横のつながりの部分が弱いような気がする。たとえば、生涯学
習関連施設について、ここに学校教育がどのように関わっていくのか、公民館と
しての活動の中に、地域で学ぶ子どもたちや学校の先生方が重なっていくと、さ
らに活動に広がりができるのではないか。子どもたちは、20年、30年後には
地域に戻り、公民館の活動に参加し、社会教育活動の担い手となって、地域活動
に参加するということがかなり期待できるので、そのあたりにも踏み込んで検討
されたい。
- 本質的な問題を方向性としてどのように考えるのか、いろいろな分野との連携、
専門家間の連携をどのようにとっていくのか。あるいは、事例集のようなもの

から、それぞれの地域で行われてきたことをどのように普遍化させていくのか、単なる活動の報告では普遍化という意味において、少し弱いのではないか、という意見もあった。

〈事務局の発言要旨〉

- 子ども若者支援協議会であるが、愛知県では現在6市でできている。名古屋市、豊橋市、一宮市、北名古屋市、蒲郡市、春日井市で協議会が立ち上がっている。若者へのコーディネートについては、家庭教育コーディネーターが関わっていきたいと考えている。
- 公民館だけでなく、図書館、博物館などについても、地域の方々にとって、身近な社会教育施設であると考えており、昨年度に策定をした生涯学習推進計画の中では、公民館だけでなく、図書館、博物館についても記載をしている。
- 子育てネットワーカーについて、受講者数は1,387名いるが、現在、活動の意思があるとして県の方で登録されているのは、500名余りである。家庭教育コーディネーターについては、県で17名配置し、活動を行っている。地域活動コーディネーターについては、学校支援地域本部という事業があり、各市にそのコーディネーターがいるが、小学校で1名ずついる場合もあれば、全市で2、3名というところもあり、市によって人数はまちまちである。
- 学校支援のコーディネーターは、地域の町内会で役を受けている方やPTAの役職を受けている方がコーディネーターをやっている。周知については、学びネットあいちや活用事例集によることを考えている。
- 前回の審議会において、良い学習教材があってもVHSであるという御意見があり、生涯学習推進センターとも調整をしながら、デジタルという形で提供できるよう作業を進めている。また、幼稚園のPTA研修会について、幼稚園のPTA活動があって、家庭と教育の場がつながり、重要な役割を果たしていると認識している。
- いろいろな主体が集まる場というものはなく、さまざまな情報を集めて、学びネットあいちで発信していくという形で連携を進めている。

【平成26年度愛知県生涯学習推進計画事業（案）について（資料2）】

〈各委員の意見要旨〉

- 今年は、ESDに関するユネスコ世界会議が愛知で行われるが、生涯学習課として地域における取組をどのように支援し、来年度はどのように事業を計画しているのか。
- 自分たちの活動について、気が付いたらESD活動だったという活動を既に何十年もの間ずっと続けている。今回の資料を読み、自分たちの活動もESDに関する活動であったと実感している。
- ユネスコ世界会議は毎年行われるのか。
- ユネスコスクールへの支援について、これは公民館のESDへの取組とも非常に密接な関連がある。工夫できるのであれば、ユネスコスクールの取組と公民館の取組とを関連付けることができると良い。岡山市ではユネスコスクールと公民館の取組とはかなり密接にリンクしている。
- それぞれの事業に関する主体を取り巻くものとして、ボランティアという形で事業に参加したい人は多いと思う。ボランティアの参加についてはどのように考えているか。
- 学ぶことをどのように活かしていくか、高齢者、女性を含め、学んだことをどのように社会に活かしていくのか、ということがポイントだと以前から言われていたが、資料の施策からは、その道筋がはっきりと具体的な形では見えない。
- 学びネットあいちについて、これまで自分が生活する中で目に触れたことは一度もない。多くの人がこのネット自体を知らないし、どうやって活用したらよいかも知らないと思うので、啓発活動も含めて、予算を使っていただきたい。
- 生涯学習の中で、これからの一つの大きな課題となってくるものに、男女共同参画社会の形成があると思う。生涯学習全体の中で、男女がそれぞれともに生き生きと活躍できる社会の実現が、生涯学習の普及、発展のために重要なことであり、男女共同参画社会を作るという基本的な考え方が、持続可能な社会づくりの中の一つの項目としてではなく、全体的な考え方の中に反映されるような生涯学習推進計画であると良い。
- 生涯学習体系的なものと良い。縦軸で乳児、幼児、小学校の低学年、高学年、中学校、高校、大学、青年、一般、高齢、その他があり、それに対して支援、相談、養成、キャリアデザインや男女共同参画、健康、スポーツ、文化、芸能などがあり、それに対してどのような事業があるのかが分かると、相談なども行いやすいし、県の取組もわかりやすい。
- 社会が高齢少子化、人口が激減していく中で、その状況に耐え、どうやって社会を生きていくのか、そういう時代がもう目の前に来ている。そのなかで、どういう知恵を出していくのか。行政は予算を超えたことについてはなかなか

対応が難しく、その部分に県民がどのように取り組み、対応していくのかが問われている。

〈事務局の発言要旨〉

- 来年度について、大府市と弥富市については継続的に事業を行っており、引き続き支援をしていきたい。ほかに、田原市の活動を支援していきたいと考えている。
- ユネスコ世界会議は毎年行われるものではなく、国連ESDの10年の最終年ということで、史上初めて行われるものである。
- 持続可能な社会づくりは非常に重要なことであり、社会教育関係団体と地域の子どもたち、社会教育施設である地域の公民館などを連携させながら、今年度に行っている取組を継続させていきたい。
- 行政ができることは予算的な制約もあり、なかなか難しくなっているが、社会教育関係団体や地域のボランティアの方々と十分に連携をとりながら、いろいろな事業に参加していただきたいと考えている。
- 学びネットあいちについて、トップページに1日でおおよそ300件のアクセスがある。SNSを新しいシステムでは構築し、現在300件というアクセスをできれば400件、500件にしていきたいと考えている。
- 委員ご指摘のような形で生涯学習計画を作っている都道府県もあるが、いろいろと検討を加えた上、今回の計画では、生まれてから高齢になるまでという時系列の形ではなく、5本の柱という形で整理している。